

お知らせコーナー

■菅生子ども文化センター ☎976-0444

- ◇おたのしみ会 12月26日(土)午後2時～
参加費無料 プレゼントがあります。
- ◇幼児クラブ会員募集(第25期)
自然の中で親子で思いっきり遊びましょう。
無農薬で野菜の栽培活動もしています。
平成6年4月～平成10年3月生まれ対象
詳細は☎050-569-7602(堀)

■蔵敷子ども文化センター ☎977-2577

- ◇12月の行事
5(土) 年忘れボウリング大会
12(土) 子どもフェスティバル
16(水) チャンピオンシップ(7人制)
19(土) ミニ四駆大会
24(木)～26(土) 年末子ども映画会
- ◇1月の行事
9(土) 子ども新年会(百人一首、ハネキ、モチキ)
- 13(水) 子ども映画会
23(土) 初笑いゲーム大会
27(水) チャンピオンシップ(的当て)
- ◇毎月の行事
火曜日 けん玉の日 水曜日 図書の貸出
金曜日 卓球の日
第1・3・5土曜日 ミニホッケーの日

■宮前市民館菅生分館 ☎977-4781

★すぐ役立つ取材～編集の技術

サークル活動、地域活動、PTA活動、仕事に生かしたい方に、取材から編集、DTPまで、ノウハウのエッセンスを記者生活30年のベテラン元記者が教えます。1月22日から毎金曜日午前10時から12時、全9回 講師 谷口 穰(元朝日新聞記者)
申し込み・問合せは分館へ電話で

■生涯学習委員会から

父親の役割についてのシンポジウムを計画中
1月末～2月初旬



お詫びと訂正

『とらいあんぐる菅生』17号(7月16日発行)の一部に間違いがありましたので、お詫びして訂正いたします。

- p 3 地域教育会議に目を向けよう 3行目「1995年に・・・」を「1990年に・・・」に
「青少年健全育成委員会」を「青少年委員会」に
4 運営委員会事務局「小岩 覚、相良清孝、生駒みを、井上ひとみに
運営委員会事務局 会計の項目を削除
非選出委員 「吉原一幸 菅生中地域教育会議担当教諭」を
「小岩 覚 菅生小地域教育会議担当教諭」に

■稗原小学校

《算数委嘱研究発表会》 於 稗原小学校
1月27日(水) 13:30～16:00

研究課題
「あれ? どうして? あっそうか!」
生き生き学ぶ算数学習
—認め合い、高め合う学級作りを通して—

全ての子どもに「算数っておもしろい」「算数すき」という思いを抱かせたい。本校の研究の出発点です。「あれ?」「どうして?」と問いをもつことにより、子どもたちは自分から学ぼうとします。そして、友だち同士いろいろな考え方を交流し合い「あっそうか!」と納得し、解決した満足感を抱きます。そんな算数の学習を作り出そうと研究してきました。(野上)

■菅生中学校

12/5(土) 校内マラソン大会 於西長沢公演
1/12(火) 校内百人一首大会

■菅生小学校

11/28(土)13:00～16:00 第31回 向丘青少年美術展
11/29(日)9:00～15:00
1/16(土)または30(土) PTA主催どんと焼き
1/22(金)～29(金) かきぞめ展

子ども110番って?

こどもの電話相談ではありません。学校の行き帰りや放課後に、子どもが不審者につきまといわたり、危険を感じたとき、すぐ近くの家やお店にとっさに逃げ込める場所を確保しておこうというシステムです。「川崎市青少年の健全な育成環境推進協議会事務局」が軸となって地域団体と連携し実施するため準備中です。

耳より情報

菅生分館の図書コーナーをご存知ですか?

分館のロビーに図書コーナーがあります。宮前図書館の蔵書約400冊と、寄贈分を含めると約1000冊。宮前図書館の本は3ヶ月毎に半数を入れ替えています。1人3冊まで、3週間を限度に借りることができます。ぶらりと寄ってのぞいてみませんか。

菅生中学校区地域教育会議ニューズレター(18)

1998年11月21日
発行:菅生中学校区
地域教育会議
編集:広報委員会
事務局:菅生小学校
(977-0914)

とらいあんぐる菅生

教育相談ルーム を ごぞんじですか

お子さんについての悩み相談

菅生中学校区地域教育会議では、不登校やいじめなどお子さんの教育に関する悩みごとの相談事業を行っています。お子さんについての悩みや、相談がある方はお気軽にドアをたたいてみてください。専門の相談員がお受けし、相談内容の秘密は厳守されます。

毎週木曜日 午前10時から11時

菅生分館談話室

※予約の必要はありません。

問合せ 菅生分館 (TEL 977-4781)

子どもの力を奪うものは・・・

*不登校の子どもたちは年々増え、全国では約8万人以上、川崎市でも約1,000人の小中学生が何らかの理由で学校へ行けなくなっています。こうした状況のなか、地域教育会議では菅生中の橋本校長先生の協力を得て、今年9月に、相談ルームを開設しました。相談員には市総合教育センター訪問教育相談員の坪井先生があたっています。

坪井先生は長年にわたる教員生活の後、豊富な教育経験を生かして、現在、塚越相談室での訪問相談員をされています。そこで、先生に不登校の原因などについてお話を伺いました。

*97年の学校基本調査報告書によると、30日以上の不登校数は、全国で8万人以上(小学生1万7000人、中学生6万5000人)、川崎市では96年の調査で1113人(小215人、中898人)となっている。



親にとって「正しいこと」は 子どもにとってどうなんだろう?

不登校の原因は、いじめ、人間関係、勉強などにあると思いますが、それ以上に、保護者に問題があるケースも多いようです。例えば、親が子どもを一人の人間として認めていない、過保護にしている、命令口調の話し方をします。その結果、子どもの判断力、思考力を奪うこととなります。これらのことが、知らず知らずのうちに子どもの心を傷つけ登校拒否の原因の一つになっていくのだと思います。親にとって「正しい」「良い」と思うことが、子どもにとっても果たしてそうなのか考えてみるこ

とが大事。そして、大人の方が、今の子どもが生きている時代を勉強し、大きな目で子どもを見守っていく必要があると思います。(談)

お話を聞くうち、子どもに対する親の姿勢は、不登校に限らずいじめの問題にも通じているような気がしました。同時に、先日聞いたある講演会での話の中で、『教』は学校で、『育』は家庭で」という言葉思い出しました。(峯岸)

学校は変わる『菅生中学校の試み』

学校は勉強するところであるが、知識を身につけるよりも、もっと大切な勉強があります。それは学び方を身につけること・学ぶ姿勢を身につけることです。これは一生を通じて役立つ力です。

——橋本校長先生の言葉より——

< 2002年義務教育は変わる >

2002年度から学習指導要領が大きく変わります。小学校でも選択授業ができて、個性重視が進み、生きる力を育てる教育も、より盛んになります。菅生中学校では早くからこの考えを受け入れ、試みがなされてきました。

選択授業——週に1回、2年生は1時間、3年生は2時間、いくつかのコースの中から1つを選んで受けることができます。コースはそれぞれの条件により、人数が設定されているので、子どもたちは第1～第3希望までを選び、その中から決定して5月に開講します。他にもたとえば体育では1年生から柔道かダンスを選べるなど、各教科の中にも選択を取り入れている部分があります。時間的にそう多くはないように思えますが、取材した子どもたちのほとんどは「選べるのが嬉しい」と言っています。「選べる」ということは、子どもたちにとって大きな意味があるようです。

< 委嘱研究社会科を終えて >

「自己学習力を育てる社会科指導法の研究」～一人ひとりの個性を生かした学習過程の工夫～という主題で平成6・7年度に川崎市教育委員会の委嘱を受けて研究が進められました。

「指導する教育」から「支援する教育」へ、「学んで得た知識や技能」重視から「自ら学ぶ意欲、思考力・判断力・表現力などの能力」重視へ変えていきました。集団の中で一人ひとりの個性を生かし、能力を発揮し高めていく、また主体的に学習をすることの喜びを知らしめるために、課題解決学習を取り入れました。

この委嘱研究を契機に他の教科でもさまざまな試みが行われています。

課題解決学習——

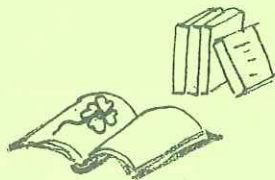
「つかむ」「調べる」「まとめる」「広げる」能力を伸ばすことを目的に、①課題の設定・分担 ②課題の学習・調査 ③発表準備 ④発表 ⑤補充学習と進めていきます。発表会では調べた地域の服装を紙や布で作ったり、現地にインタビューするといったスタイルもあれば、テレビのクイズ番組をまねたりと楽しいです。

< 子どもたちの声 >

- 菅生中は他校に比べ個性的。自分で調べ発表する教科が多い。
- 教科書とプリントを交互にやるだけの授業は興味もてないし、分かりにくい。
- 理科の実験をもっとやりたい。
- 体育が選択できるのが良い。
- 自分で選ぶ授業があるのが良い。
- 積極的に学習することで受験勉強にも役立つ。
- 楽しい授業をやってくれると勉強もおもしろくなって、良く分かるのに。たとえばゲームを取り入れるとか、人形劇で説明してくれるとか。
- 学校で楽しいと思うことは、一番に友達づきあい。それが悪いと楽しくない。2番目に部活やイベント。3番目に授業。(多数)
- 授業が楽しいと苦手な教科でも好きになる。反対にいやな授業だと得意な教科もいやになる。
- 中学校は小学校より自分で責任をもつことが多く、その責任も重い。大変だけど、その分やり甲斐がある。

< 生徒会・PTA・教職員の交流会 >

12月7日(月)午後3時より学校をもっと良くしていくために、お互いの考えを話し合おうということで、交流会を計画しています



< 菅生中 3つの努力場面 >

- (1) 地域・家庭との連携活動
地域の方々の協力を得て、
1年生——「地域を学ぶ」(地域の施設などを調べる)
2年生——「地域で学ぶ」(職業体験・ボランティア体験など)
3年生——「地域に学ぶ」(地域の先輩の話や話を聞く)
と継続して学習できるように進めているところです。
家庭と連携を深めるために、「公開授業参観日」の設定や「家庭訪問」の復活なども行っています。
- (2) 心の育成活動
学期毎に1週間の「教育相談週間」の実施。
生徒・先生・保護者による「体育着等検討委員会」の設置。
広くみんなの意見を聞く環境づくりを心がけています。
- (3) 感動体験活動
部活動の充実を図る一つとして家庭に案内・ちらしを配布して、試合・発表会や練習などへの保護者の見学を促進しています。また、子どもたちが活躍できる場面づくりとして体育祭・文化祭では、実行委員会を組織し議案書づくりの段階から生徒が手がけています。

< 文化祭で薬物乱用防止を訴える >

保健委員会では、毎年文化祭(発表の部)で劇を行っています。今年は10月21日宮前市民館の大ホールで「No drug」と題して、「薬物の怖さや友情の大切さを訴えたい」と発表しました。もちろんシナリオも委員長のオリジナルです。10月22日の神奈川新聞にも取り上げられました。

< 地域参加の文化祭展示&バザー >

10月18日、盛大に文化祭(展示の部)とバザーが催されました。台風一過の秋晴れの中、子どもたちの熱のこもった作品の展示とともに、地域の方々や保護者の方々に混じった子どもたちの生き生きとした声が響きました。

< 連合文化祭で地域のバス路線について発表 >

10月28日、高津区・宮前区の中学校が集まった連合文化祭で、「菅生地域の変化とバス路線の発達とのかかわり」と題して発表を行いました。地域の方々へのアンケート調査をもとに、市の交通局運輸課へ質問に行った様子も含まれています。

< お母さんたちの声 >

- うちの子どもは家であまり学校のことを話さないが、学校の方で親が出向く機会を設けてくれるので、分かるようになった。
- お父さんはシャイで、自分からは出て行こうとしないが、学校の方でそういう機会を設けてくれるので助かる。
- 親以外でも地域の人たちが学校のことを考え、協力してくれるのがありがたい。